

2 かぜ・そら・たいよう おたより

そらぐみ 制作展

季節外れの暖かい2月でした。体調を崩してお休みする子どもがいましたが、長引くことなく元気に登園することができました。2月には、豆まき(節分)があり、たいよう組は鬼に扮して、鬼役になったり、かぜ・そら組は新聞紙で作った豆で鬼退治をしました。また、制作展に向けて様々なものを使って作ることを楽しみ、お家の方と一緒に、親子の時間を楽しく過ごしていたのではないかと思います。今年度も、あと1ヶ月になりました。みんなが元気に楽しく過ごせるようにしたいと思います。

かぜぐみ \ 気になる子どもの言葉 /

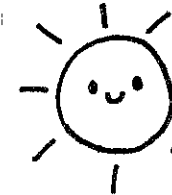
最近、お家の方から「言葉遣いが気になります」「こんな言葉を使っている」と聞きます。園でも色々な言葉が飛び交うようになっています。幼児期は言語に限らず、楽しいことをたくさん覚えていく時期です。良い言葉・悪い言葉にかかわらず、積極的に吸収した知識を活用してみようとするのは外部から様々な知識を得て成長している証でもあります。誰かの真似をして言葉の意味が分からずに使ってしまうことも時々あります。例えば「うんち」という言葉でも車や電車などの「うんち」の笑いかけがあります。大人にとってはあまりよくない言葉も子どもにとっては面白い言葉の一つ。「楽しい言葉」という言語で友達との真似をしたり反応を楽しんでいる時期でもあります。園ではダメだよと言うのではなく、食事の場などは控えようねと時と場合に応じて適切な言葉がどうか納得しやすい理由を伝えていながら伝えていきます。また、友達との関わりの中でお互いに話しかけ合ったり、嫌いな言葉や嫌いな言葉で傷つけてしまったりする姿があります。「本当は好きなのに感情的になっちゃって」「自分の思い通りにいかないから」などの理由があります。嫌いな言葉や嫌いな言葉の中にある本当の気持ちを聞き出し、相手にどうなのか嫌だったのかという話を言葉で伝えていけるよう関係を築いていきます。そして言われたらどう感じるのかその態度(表情)を考えていきます。一度や二度で言わないで済むことは難しいですが、どう感じる経験を通して自分の気持ちの表し方の仕方や自分とは違う色々な気持ちがあることに気づき言葉で伝えることが出来るようになってほしいと思います。

\ 友だちが大好き！ /

子ども同士で鬼ごっこ・神経衰弱・かくれんぼ・あひだりなどの集団遊びが増えました。今までは「先生やろ」と保育者が加わっていました。最近では、じゃんけんや、分けるように順番を決めたり、鬼を決めたりと遊びを進めています。時に鬼ごっこや、ソノビ(に)変身して、縄跳びや、蛇に見立ててのゲームに分かれて綱引き(に)なっていたり、「あ、これ(は?)」「それいいな!!」と子ども同士で遊びが展開されていき、友だちと遊ぶ時の子どもたちの表情からは笑顔が溢れています。大きな声で遊ぶこともありますが、泣いても数分後には一緒に遊んでいることも見られます。嬉しい時、悲しい時共に喜んで、悲しんだりしながら子どもたちは関係も深めています。

最近、様々なことが便利になったためか、使う必要がないのか、片手だけ使ったり、両手を使わないことや、指先の使い方(動かす方)が不器用な子どもが増えてきたように思います。そこで、両手、指先を使った物を作り、作るだけでなく、自分で作ったものを活用して、自分で使う喜びや物を大事にする気持ちを持ってもらいたいこと、継続していくにはなかなか根気強さが必要になります。諦めないで最後まで作り、達成感を感じてもらいたくて、織物(なんでもマット)にしました。

切り込みを入れた食品トレーに、2色(赤と白)の毛糸を交互に掛けていきます。毛糸が掛けられると、切り込みから毛糸が抜けられないように、保育者がテープで固定しました。織っていくものは、裂いた端切れです。布に切り込みを入れて、子どもたちが裂きます。裂く方向が違ったり、裂くことができません。思いきり力を入れて裂きます。その後、作り方を説明していくのですが、仕組みを理解するまでは、豆粒の中は「??」がいろいろな子どもたちです。しかし、理解すると「あかひた、しろのうえ、あかひた、しろの…」あかひたでおわって、つぎはしろのうえ…」などと、自分に言い聞かせるかのように、正確な言葉で、友だちに織っていました。また「せんじ、こう?」「これでいいの?」と正確な言葉でもありました。端切れは、織っている途中でなくなってしまう。そこから別の端切れをつなげなくてはなりません。保育者が結んでつなげたか、なぜかそのまま織っていき、どうしても、そこから折り返してしまったり、子どもが数人いました。大人にとっても簡単なことでも、子どもたちにとっては、混乱することでも、このあたりが難しいと感じました。ある程度、織り進めると、手前に引き寄せるのですが、たくさん織ったのに、とて小さくなってしまったり、それを見て「あれ?こんなに小さくなってしまった。えー」と驚いていました。終わりが見えてきたのに、まだ続きがある…。根気強く続けていかないといいけない場面に出くわしますが、諦めないで続ける姿や「つなれた」と言い、「じゃあ、明日、続きする?」と聞くと「うん」と言い、翌日も続きをしたり、夕方には「なんでもマットしたい」と子どもたちから意欲的な声が聞かれました。そら組になっていくつかの制作をしてきました。一番楽しんで作ることができたのではないかと思います。食品トレーから織れたものを取り出した時には、嬉しそうに笑顔の子どもたちでした。今後も制作だけでなく、何事も途中でやめてしまわず、少しずつでも何日かかっても、最後までやり遂げる子どもたちになってほしいと思います。そのお手伝いができたらと思います。



たいようぐみ

2月になり、節分や制作展、そして園外保育とあっという間に過ぎていきました。保育園生活で最後ということもあり、行事にも力が入りますが、一つひとつ楽しんでいったのかなと思います。また生活の中で友だち、または他のクラスの子もがトラブルにあっていて、保育者より先に「どうしたん?」と話を聞きにいきます。話を聞いたあと、たいよう組の子ども同士で「どうする?」と相談し、出てきた答えをその子どもたちに「こうしたらいいんじゃない?」と伝える姿もあり、今まで自分たちが積み重ねてきた経験からどう解決したらいいかを考えられるようになり、成長を感じました。

〈節分〉今年には鬼役としてお面を作り、各クラスを回りました。子どもたちも加減をしたのか、「わあ」と驚かせるような感じではなく、すーっと保育室に入って静かに子どもたちと触れ合っていました。一クラスずつ回ると満足した様子で笑顔を見せていました。そして、その後大人の鬼もやってきて固まる子ども、涙をうかべる子ども、必死に豆(新聞)を投げる子どもなど、一人ひとりの鬼に対する反応がありました。給食ではいわしが出たので、「これ食べたら体がいわしの匂いするし、よってこないな」と話していました。

〈制作展〉絵本からのイメージを上げ、紙ねん土で形を作ると同時に共同制作もしました。木材を使い、どう繋がる線路にするか、話し合っていました。中には「こうしたいって言ったやんか」と言い合いになることもあります。子ども同士で意見を出し合い、お互いが納得する形で出来ました。電車にくわしい子どもに模倣ってどんなん?と聞く姿もあり、友だちと協力して作ることが出来ました。今までなら自分の思いを通し、相手の話が聞けず、保育者も交えて話し合いになることもあったと思いますが、話を聞いて納得する姿が見られました。

保育園生活が残り1ヶ月を切りました。保育園で過ごすのもあとわずかかと考えると少し寂しさと同時に大きくなったと感じます。3月はまた卒園式のこと、お別れ遠足、お別れ会と行事もあります。楽しむところ、そして、少し頑張るところと区切りをつけ、過ごしていきたいと思います。子どもたちがさらに成長していく姿をこれからも見守りたいと思います。